令和５年度 第２回三島市郷土資料館運営協議会議事録

＜日時＞　令和 6 年 2 月9 日（金）午後 1 時 30 分から午後 2 時 45 分まで
＜場所＞　郷土資料館 多目的室
＜会議の公開・非公開の別＞　公開
＜出席委員の氏名＞　増島淳、加藤雅功、奥村徹也、橋本敬之、坪井則子、西島真美、齋藤幸蔵、小藪余志美、大村朱実、池谷初恵
＜事務局出席者氏名＞　小塚教育長、鈴木教育推進部長、芦川郷土資料館長、柿島学芸員、古屋副主任
＜傍聴人＞ なし
＜内容＞
1　開会 事務局
2　委嘱状公布　小塚教育長
3　あいさつ　小塚教育長
　職員紹介　事務局
4　委員自己紹介　各委員
5　正・副委員長選出　慣例により委員の互選で増島淳委員長・加藤雅功副委員長が選出された。
6　委員長あいさつ　増島委員長
7　議事　（慣例により増島委員長が議長で議事進行を行う。）
(1)　令和５年度事業経過報告について事務局が説明
＜委員質問事項＞
委　員　伊豆史談会の寄付は、寄附金の他に資料・記録等は無かったのですか。
事務局　資料・記録等については特にいただいておりません。会の方は解散されましたので、会に残ったお金を郷土資料館の充実に使って欲しいというお話でした。
委　員　民間所在資料調査について、資料を持っている自治会から相談を受けることがある。古い資料をどうすればいいか、とか。近代の資料についてはまず撮影とかスキャンという方法があるが、どこまでデジタルで残すのかという、そういう整理をしなくてはならない。平成、令和と毎年資料は増えていくわけで、ゆくゆくはそういうお手伝いを求められるようになるのかなと思うので、それらに対する方策を考えていく必要がある。
まずその場所で（所有者自身が）保管してもらう方向性をつけるけど、最終的に「それでも廃棄したい」となったら、「こちらで要らないものは処分していいですか」という承諾のもとに預かるしかないのかなと。撮影に

してもスキャナーにしてもそれ相当の時間がかかるし、また撮影したら撮影したで、「では撮影したもの以外は大事じゃないんですね」となってしまう問題がある。

事務局　今後、館で引き取る必要も出てくるかもしれませんが、スペースの確保が非常に難しいです。現在も民間所在資料調査では、分量が多い場合、一旦お預かりしてリスト作成や撮影を行っています。そのお預かり資料だけでもスペースの確保に苦慮している状態です。ですので、原則的に所有者のもとで保管をお願いする方向で進めています。その際、中性紙箱・防虫剤を提供するなどして環境を整え、館の燻蒸時（隔年実施）に順番にお預かりして一緒に燻蒸をかけることも行っています。

委　員　他の市町でも（個人所有の資料について）もう廃棄してしまったとか、あるいは売ってしまったとかの話を聞く。

事務局　そのためにも、この状況を知ってもらうこと、この活動を周知することがまず大事であると思っています。補助金の間は講演会を開催しましたが、もともと興味のある方にしか届いてないだろうと思いますので、PR の仕方を模索しています。

郷土資料館引継ぎ後の活動としては、石造物の報告書を出す段階で、地域の人の話を収集するため、調査地区の公民館で報告会を開くことをしていまして、その機会を利用して、館から古文書等の実物を持って行き、あなたの家にもこういうものがありませんか？あったら郷土資料館にお知らせください、と、草の根的な方法を今進めています。もっと広く周知できればと思っています。

委　員　学校や民間所在の資料の調査・把握というのは、昨年度まで三島地域資料調査会（郷土資料館・東小・徳倉小より構成、文化庁の補助を受けて令和３・４年度に活動）が実施してたことだと思うのだけど、それを郷土資料館が引き継いだという理解でよいか。

事務局　はい。文化庁の補助を受けた令和３・４年度の活動で事業を実施していく体制を整えることができたので、今年度から郷土資料館が引き継いでおります。

(2)　令和６年度事業計画（案）について事務局が説明。

まだ予算案であり、議会で承認されると正式なものとなります。

<委員質問事項>

委　員　民間所在資料の調査の候補に小林家資料があがっているが、三島代官のご子孫か。

事務局　そうなるかと思います。来年度以降にお借りしたいと考えていますが、量が膨大なので長丁場になりそうです。

委　員　　企画展の予定であがっている「野口三四呂の世界（仮）」というのは定期的にやっている三四呂人形の企画展か。また一筆箋を印刷とあるが、新しくグッズを追加するということか。

事務局　　企画展について、三四呂人形の展示は勿論なのですが、そのほか、野口作品のうち、スケッチとか普段、表に出る機会の比較的少ない作品を見ていきますと、ビビットな色使いや大胆な構図など、人形とはまた異なる雰囲気の魅力的な作品が多数あります。次年度の企画展では、こうした代表作とされるもの以外の作品群も積極的に紹介しようと計画していまして、新たなファン層の獲得に繋がるといいと考えています。

一筆箋も同じくファン層を広げたいという考えから企画しました。三四呂人形の中に、猫をモチーフにした非常にかわいらしい作品（寄託）がありまして、それを使わせていただきたいと考えています。一筆箋は通常縦書きですが、横書きの仕様にすることで、最近増加してきている海外の観光客の方にも手に取ってもらえるのではないかと考えています。

委　員　　次年度修復予定の『御東幸御用留』はどういう資料か。

事務局　　明治天皇が京都の御所から江戸城に行幸する際の、三島宿に到来した記録類をまとめた資料です。

委　員　　館蔵資料のデジタル撮影を進めるということだが、そこにあがっている大日本帝国陸地測量部の地図は５万分の１のものか。

事務局　　はい。初回の測図以降、修正が繰り返されますので、発行年時の異なる「三島」の５万分の１を複数枚所蔵しています。

委　員　　広報みしまの「歴史の小箱」（郷土資料館が月１回連載）の掲載回数が減るというのはどういうことか。

事務局　　広報みしまの発行自体が月２回から月１回になります。そこで紙面に載せる情報量の都合から「歴史の小箱」は年 12 回から年６回に変更となります。「歴史の小箱」の掲載が減るということは、市民の皆様に郷土資料館をアピールする場、情報発信する場も減ってしまうということなので、何か代替案を考えなければと思っています。

８　閉会　事務局

＜終了＞